

Contents

- 02 サステナビリティレポート2023について
- 03 編集方針
- 04 ヤクルトの企業概要
- 05 ヤクルトの事業展開
- 06 **トップコミットメント**
- 10 ヤクルトのはじまり
- 12 **ヤクルトのサステナビリティ**
- 22 **環境活動報告**
- 24 環境マネジメント
- 30 気候変動
- 38 プラスチック容器包装
- 42 水
- 45 資源循環
- 46 生物多様性
- 49 **社会活動報告**
- 50 イノベーション
- 55 地域社会との共生
- 62 サプライチェーンマネジメント
- 72 人権
- 79 製品安全
- 82 顧客満足
- 86 人材マネジメント
- 89 人材育成
- 91 健康経営
- 93 ダイバーシティ
- 95 ワークライフバランス
- 96 労働安全衛生
- 98 ヤクルトレディに対する取り組み
- 99 **ガバナンス報告**
- 99 コーポレートガバナンス
- 105 リスクマネジメント
- 107 コンプライアンス
- 110 第三者意見
- 111 外部からの評価
- 112 ESGデータ集

トップコミットメント

ESG 課題への対応は不可欠であり、 事業を通じて人と地球の健康を 実現していきます

代表取締役社長 **成田 裕**

ヤクルトグループのDNA「代田イズム」

ヤクルトの創始者 代田 稔は、幼い頃、コレラやチフスが流行し、細菌感染症で苦しむ人々を目のあたりにし、「このような状況を改善したい」という想いを抱いていました。その後、代田は、研究の道を進む中で、微生物に着目し、生きて腸までたどり着き、有用なはたらきをする「乳酸菌 シロタ株」を見出し、乳酸菌飲料「ヤクルト」を世に送り出しました。病気にかかってから治療するのではなく、病気にかからないようにする「予防医学」。栄養を吸収するのは腸であり、その腸を丈夫にすることが、健康で長生きにつながるという「健腸長寿」。一人でも多くの人に健康になってもらいたいという願いから大切にしていたことが「誰もが手に入れられる価格」で。これらの代田の想いは「代田イズム」と呼ばれ、ヤクルトのDNAとして現在に受け継がれています。この「代田イズム」は、日本国内だけではなく海外にも広がり、現在、日本を含む40の国と地域で1日当たり4,000万本以上の乳製品をご愛飲いただいています。しかしまだ世界には、「乳酸菌 シロタ株」を待ち望んでいる人は多く、1日でも早く、一人でも多くの人にお届けしなくてはならないと考えています。

新型コロナウイルスの感染拡大は、健康意識を高めることにもなりました。時代は移りゆき、「健康」の捉え方も変化し、今、私たちは、肉体的だけではなく、精神的にも社会的にも満たされた状態であるWell-beingを求めています。「Yakult(ヤクルト)1000」「Y1000」が多くの方から支持を得られたのは、現代の社会課題の一つである「ストレス」にアプローチしたからだと考えています。今も昔も当社が実現したいことは、社会課題の解決であり、この取り組みは使命だと思っています。



Contents

02	サステナビリティレポート2023について
03	編集方針
04	ヤクルトの企業概要
05	ヤクルトの事業展開
06	トップコミットメント
10	ヤクルトのはじまり
12	ヤクルトのサステナビリティ
22	環境活動報告
24	環境マネジメント
30	気候変動
38	プラスチック容器包装
42	水
45	資源循環
46	生物多様性
49	社会活動報告
50	イノベーション
55	地域社会との共生
62	サプライチェーンマネジメント
72	人権
79	製品安全
82	顧客満足
86	人材マネジメント
89	人材育成
91	健康経営
93	ダイバーシティ
95	ワークライフバランス
96	労働安全衛生
98	ヤクルトレディに対する取り組み
99	ガバナンス報告
99	コーポレートガバナンス
105	リスクマネジメント
107	コンプライアンス
110	第三者意見
111	外部からの評価
112	ESGデータ集

サステナブル経営の鍵は「人」

ヤクルトと地域の皆さまをつなぐ象徴であるヤクルトレディ組織は、誕生から今年で60年を迎えます。ヤクルトの事業は、ヤクルトレディなしには語れません。ヤクルトレディは、ヤクルトの想いをお届けしようと、一軒一軒訪問し、皆さまと心を通わせてきました。そして現在、ヤクルトレディは、全世界で約8万人が活躍しており、そのヤクルトレディが「人」と「人」を結んでいます。これから将来もヤクルトのお届けは、「人」と「人」、「心」と「心」をつなぐものであり、その姿勢はこれからも変えません。

一方、当社は、社員それぞれが能力を発揮し、生き生きと活躍してもらうためには、どのようにしたら良いかを常に考えています。雇用の安定や社員教育、ダイバーシティの推進、そして、健康をお届けする私たちこそが健康であることを大切にしています。ここ数年かけて女性社員とその上司を対象にしたキャリア教育に取り組んできたこと等により、女性管理職の割合が年々増えています。また、社員の生活習慣改善ならびに健康保持増進を図るため、運動や食事を指導する機会を設けています。ほかには、副業制度も導入し、個々の能力を他分野で生かすとともに、個々の成長に結びつけています。当社の持続的な成長には、そこで働く社員の健康と成長が不可欠です。その成長は、組織に依存するのではなく、個人がキャリアオーナーシップを持ち、業務に挑戦し、自己研鑽に励むことで培われます。その社員に応えるため、私は、社員にとって働きがいと働きやすさをもった魅力ある会社にする努力を惜しみません。会社と社員の良好な関係をつくりあげたい、そう願っています。

ヤクルトグループのマテリアリティ

ヤクルトは、「Yakult Group Global Vision2030」で目指す姿として「世界の人々の健康に貢献し続けるヘルスケアカンパニーへの進化」を掲げ、「世界の一人でも多くの人々に健康をお届けする」「一人ひとりに合わせた『新しい価値』をお客さまへ提供する」「人と地球の共生社会を実現する」の3つを定性目標に定めています。この目標は、創業以来の想いを引き継ぐとともに、現代に求められることに応じ、さらに持続的な未来をつくるものです。

地球や社会の持続可能性に貢献するとともに、ヤクルトが持続的に活動するうえで、ESG課題への対応は不可欠であり、社会の一員として果たすべき責任と認識しています。限られた経営資源を効率的に投下するために、2020年度に当社の関係部署のメンバーや経営層が

Yakult Group Global Vision 2030

当社は、ヤクルトグループとしての成長を維持し変化に対応していくための道しるべとして、長期ビジョン「Yakult Group Global Vision 2030」を策定しました。2021年度から2030年度までの10年間は、事業活動を通じて、社会の課題解決に取り組むことで、これまで以上にお客さまの期待に応え、企業理念の実現による企業価値向上を図り、持続的な成長を目指していきます。

目指す姿

- 世界の人々の健康に貢献し続けるヘルスケアカンパニーへの進化

定性目標

- 世界の一人でも多くの人々に健康をお届けする
- 一人ひとりに合わせた「新しい価値」をお客さまへ提供する
- 人と地球の共生社会を実現する

定量目標(2030年度)*1

- グローバル乳本数*2 5,250万本/日
(国内1,050万本/日、海外4,200万本/日)
- 連結売上高 5,500億円
- 連結営業利益 800億円(営業利益率14.5%)

※1 2021年6月発表 ※2 乳製品売上数量(1日当たり本数)

中期経営計画(2021~2024)

「Yakult Group Global Vision 2030」のうち、2024年度までの4年間における中期経営計画を策定しました。基本方針として「変革への挑戦」と位置づけ、社会環境の変化に応じた新たな価値創出へ積極的に挑戦していきます。

なお、定量目標については、2023年5月に上方修正を発表しています。

重点テーマ

- お客さまの価値観の多様化に対応した事業の拡大
- グローバル展開の強化による持続的な成長の実現
- ヘルスケアカンパニーの実現を目指した事業領域の拡大
- グループが保有する経営資源の最適活用
- 持続的成長に向けた環境課題への取り組み強化
- イノベーションを実現するための投資の促進

実現のための戦略

重要テーマを実現するために、食品事業(国内・海外)を中心にさらなる拡大を図るとともに、新規領域への挑戦として「植物素材利用商品」の創出、マイクロバイオーム研究を活用した事業展開等により、ヘルスケアカンパニーへの進化を目指します。

新定量目標(2024年度)

- グローバル乳本数 4,570万本/日
(国内1,220万本/日、海外3,350万本/日)
- 連結売上高 5,750億円
- 連結営業利益 860億円(営業利益率15.0%)
- ROE 12%以上



Contents

02	サステナビリティレポート2023について
03	編集方針
04	ヤクルトの企業概要
05	ヤクルトの事業展開
06	トップコミットメント
10	ヤクルトのはじまり
12	ヤクルトのサステナビリティ
22	環境活動報告
24	環境マネジメント
30	気候変動
38	プラスチック容器包装
42	水
45	資源循環
46	生物多様性
49	社会活動報告
50	イノベーション
55	地域社会との共生
62	サプライチェーンマネジメント
72	人権
79	製品安全
82	顧客満足
86	人材マネジメント
89	人材育成
91	健康経営
93	ダイバーシティ
95	ワークライフバランス
96	労働安全衛生
98	ヤクルトレディに対する取り組み
99	ガバナンス報告
99	コーポレートガバナンス
105	リスクマネジメント
107	コンプライアンス
110	第三者意見
111	外部からの評価
112	ESGデータ集



集まり、6つのマテリアリティを特定しました。環境面では「気候変動」「プラスチック容器包装」「水」、社会面では「イノベーション」「地域社会との共生」「サプライチェーンマネジメント」を挙げています。

環境面では、2021年度に「ヤクルトグループ環境ビジョン」、中期目標である「環境目標2030」と短期目標「環境アクション(2021-2024)」を策定しました。

社会面では、「プロバイオティクス」という考え方がない時代に微生物を飲むことで病原微生物を抑えるという考えと、それを体感できる「ヤクルト」を普及したことは、「イノベーション」そのものです。約90年前に代田が持っていたイノベーションマインドを私たちは受け継いでいます。子の代、孫の代にも続く事業を創るためにも、私たちは失敗を恐れず、トライの数を増やしていきます。また、「ヤクルト」を普及するために、一軒一軒訪問し、その価値を伝え、「ヤクルト」をお届けしたこと、その普及のために「人の和」を持って同志とともに活動し、「真心」をこめて地域社会の健康づくりに貢献してきたことは、マテリアリティの「地域社会との共生」につながっています。また、サステナビリティに関する課題への対応や、持続可能な社会を実現していくためには、当社のみならず、サプライチェーン全体で取り組んでいく必要があります。そのため、「サプライチェーンマネジメント」をマテリアリティに特定し、CSR調達を推進するとともに、人権方針の策定や人権デュー・デシリジェンスの取り組みを進めています。

マテリアリティを中心にESG課題に取り組むことは、事業活動が継続する限り続けることであり、その取り組みは、人と地球が持続的に健康であるためには不可欠です。

Environment

ヤクルトの活動は、環境と強く結びついており、当社では、コーポレートスローガンとして「人も地球も健康に」を掲げ、使用する原材料の改善等にも取り組んでいます。原材料の調達活動における森林破壊は、マテリアリティである「気候変動」「水」と密接に関係しています。そのため、ヤクルトは、サプライチェーンから森林破壊をなくすことを目指す「調達活動における森林破壊・土地転換ゼロコミットメント」を2023年3月に策定しました。ヤクルトの事業活動に鑑み、森林破壊リスクが高い原材料として、紙・パルプ、パーム油、大豆、乳製品を特定しています。サプライチェーンにおける責任ある調達を推進するためにも、当社では、サプライヤーと対話する機会をつくり、健全な調達活動について意見交換しています。また、2022年8月に「気候関連財務情報タスクフォース(TCFD)^{*1}提言」への賛同を表明し、当社でプロジェクトチームを結成して対応しています。他にも「CDP(気候変動・水セキュリティ・フォレスト)」質問書への回答をとおして、ヤクルトの取り組みを振り返り、改善計画検討の参考にしています。

「プラスチック容器包装」に関しては、プラスチックの使用量削減または再生可能にする目標を「プラスチック資源循環アクション宣言」として、2019年に発表しています。ヤクルトでは、資源循環に適した素材であるバイオマスプラスチックを使用したストローやマルチシュリンクフィルムへ切り替えるとともに、2022年3月には「Newヤクルト」類へのストロー貼付を廃止しました。また、「プラスチック資源循環促進法^{*2}」の要請に則り、販売時のスプーン・ストローの提供を原則行わないこととしています。世界各国でも、プラスチックの使用を規制する動きがあり、ヤクルトでは、各国・地域の状況に応じ、包装資材の一部をプラスチックから紙に切り替えています。

^{*1} TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosure)は、G20の要請を受け、金融安定理事会(FSB)により、気候関連の情報開示および金融機関の対応をどのように行うかを検討するために設立されました。2017年6月に公表した最終報告書では、企業等に対し、気候変動関連リスクおよび機会に関する「ガバナンス」「リスク管理」「戦略」「指標と目標」について開示することを推奨しています。

^{*2} 正式名称は「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」

Contents

02	サステナビリティレポート2023について
03	編集方針
04	ヤクルトの企業概要
05	ヤクルトの事業展開
06	トップコミットメント
10	ヤクルトのはじまり
12	ヤクルトのサステナビリティ
22	環境活動報告
24	環境マネジメント
30	気候変動
38	プラスチック容器包装
42	水
45	資源循環
46	生物多様性
49	社会活動報告
50	イノベーション
55	地域社会との共生
62	サプライチェーンマネジメント
72	人権
79	製品安全
82	顧客満足
86	人材マネジメント
89	人材育成
91	健康経営
93	ダイバーシティ
95	ワークライフバランス
96	労働安全衛生
98	ヤクルトレディに対する取り組み
99	ガバナンス報告
99	コーポレートガバナンス
105	リスクマネジメント
107	コンプライアンス
110	第三者意見
111	外部からの評価
112	ESGデータ集

Social

ヤクルトの事業は、地域に根差した活動から始まりました。今も、これからも、地域とともに成長していきたいと考えています。日本国内では、商品のお届けと一緒に一人暮らしの高齢者の安否を確認することやコミュニケーションをとる「愛の訪問活動」を行っています。また、地域の皆さまが安心して生活できるよう「地域の見守り・防犯協力活動」も行っています。このような地域との共生は、海外でも国内と同様であり、健康教室や工場見学を行い、商品と健康情報を地域の皆さまにお届けしています。

一方、ヤクルトでは、人権課題への取り組みとして、2021年度に「ヤクルトグループ人権方針」を策定し、当社の関連部署で構成される「人権デュー・ディリジェンス推進会議」で議論を重ね、ヤクルトが向き合う重要な人権課題を整理しています。今後は、社員の意識を向上させ、人権侵害をヤクルト、さらにはバリューチェーン全体から排除するよう努めます。

Governance

当社では、社会変化に迅速に対応しつつ、透明性を保った経営を推進するため、取締役会の開催頻度増、指名・報酬諮問委員会の設置、業績連動報酬制度の導入、取締役のスキルマトリクスの公開等を実施してきました。

また、コンプライアンスの徹底として、社外有識者も出席するコンプライアンス委員会・企業倫理委員会の開催、「倫理綱領・行動規準」の徹底や「ヤクルトグループ腐敗防止方針」を策定しました。

今後も重要なステークホルダーである株主や機関投資家とは、株主総会や決算説明会での対話に加え、専門部署を通じた積極的なコミュニケーションを行い、持続的かつ建設的な関係を築いていきます。

むすびに

2023年5月には、中期経営計画(2021-2024)の一部修正を発表しました。これは、「Yakult(ヤクルト)1000」・「Y1000」を中心に国内飲料食品事業が全体を牽引し、2022年度終了時点で売上高・利益とも堅調に推移し、2024年度計画を前倒しで達成したため、中期経営計画(2024年度)の目標を修正したものです。今後、さらなる成長のために、「成長基盤の強化」と「事業領域の拡大に向けた取り組みの推進」を進めていきます。また、事業を通じて「人」も「地球」も健康であることを実現するよう、環境にも社会にも配慮した経営を行っていきます。これは、持続可能な社会を実現するための責任であり、ステークホルダーの期待に応えることであります。ヤクルトは、これからも社会の一員として責任ある行動をとり、社会課題の解決に誠心誠意向き合っておりまます。

2023年9月